

2019/03/01

関係各位

Far East Group

会長 大嶋 謙嗣

## 人類史

古来、人間にとって最も偉大な師は自然であった。自然は、自然の摂理（法則・ルール）で様々なものを生み出し、変化させてきた。人類は大気・海・大地と、陰陽・湧出（生成）・変化・連鎖・流動・循環・構造・バランス等の大自然の力の流れの中で学び、火を手に入れ、言葉や文字や道具を作り出した。そして、群れ（村）を作り、社会を作り、国家を作ってきた。

ひとりの人間が経験できることには限りがある。しかし、人類は各々の経験を他者に伝え合い、様々な方面から体系化させてまとめあげてきた。それは「学問」となった。学問は人類の経験をまとめあげた体系であり、人類の進歩・成長のために役立ててきた。

様々な経験から学び試行錯誤を繰り返して、飢餓や伝染病の克服、安全・快適・便利な生活（まだ完全ではないが）・・・、つまり、現在の状態まで進歩してきた。積み重ねることなく皆が一から始めたのでは、いつまで経っても猿のような存在だったろう。

だから、私たちが進歩へ向かうなら、今までの経験（歴史）を学び修めることが最短だ。

今月は、人類の歴史をザッと見直してみたい。

国や社会が進歩へ向かうために、自分たちの立ち位置でこれからの世の中をどうするのか。来年度、5年後、10年後の戦略（明確なビジョンと構造化された戦術や技術の集合体）、ひいては次世代へ何を伝え残していくのか。それを考えるための一助としてもらいたい。

歴史を語ろうとするとき、様々な視点がある。例えば、「世界史」の著者ウィリアム・M・マクニールはこう言う。「世界の諸文化間の均衡は、人間が他にぬきんでて魅力的で強力な文明を作り上げるのに成功したとき、その文明の中心から発する力によって攪乱される傾向がある・・・。時代が変わるにつれて、そのような世界に対する攪乱の焦点は変動した。したがって、世界史の各時代を見るには、まず最初にそうした攪乱が起こった中心、またはいくつかの中心について研究し、ついで世界の他の民族が、文化活動の第一次的中心に起こった革新について学びとり経験したものにどう反応ないし反発

したかを考察すればよい……。以上の見方に立つと、異なった文明間の地理的背景や接触の経路が中心的な重要性を持つ」

私はこの見方に、「進歩」へ向かう流れ（物事の発生からの連鎖）を追加したい。つまり、歴史とは、人間の無数の試行錯誤と挫折多き冒険という「進歩」へ向かう流れ（支流）の記録であると捉える。

支流同士が合流したら、それぞれの支流に流れている液体が化学反応を起こす。どのような反応を起こすかは交わってみるまで分からない。交わった結果、流れを大きくしたり、消えていったり、別の流れを作り出したりする。やがて、無数の支流が混ざり合って大きな流れができる。世界のあちこちで大小様々な流れができる。その無数の流れの先端が「現在」である。

その国や地域の立場・立地・文化等により様々な方向の流れがあるが、根底には普遍的な方向性はあると私は考える。それが「進歩」である。今まで先人たちが築いてきた流れ（歴史・社会）を信頼し、人類の進歩を信じ、進歩を考え、進歩を追求した流れを本流として継承し、引き渡していくことこそ、次世代に対する責任だと信ずるからである。

勿論、今あるもの全てが人類の進歩に向かっているとは言えない。「人間の所業の審判は歴史だけ」と言われるように、進歩へ向かっているかどうかは、後世の判断に委ねるしかない。だから、いつだって人間の計画的な行動によって形作られる未来には、「進歩」と「破滅」が同程度潜んでいる。

先哲が「不易と流行（普遍と変化）」と説いたように、普遍的な部分はあるべきではないが、変えるべき（方法や道具や結果）は変えないと進歩へ向かわない。

例えばアメリカが「進歩」のために豊かさを目指して採った産業の戦略はこう変化してきた。

18世紀後半は綿花、そこから石炭、鉄鋼、石油、電気、自動車、軍事（産業・学術の複合）、宇宙開発、PC、インターネット、健康、バイオテクノロジー……。様々に時代に応じて戦術（産業）を変えながら発展してきた。GDPは2,000兆円を超え史上最高益を更新している（日本は500兆円）。

変えなかったものは、「自由・平等・自主独立・個性尊重・競争」である。

もう少し世界を広く見てみたい。

大雑把に言って、人類は「交易と略奪」の手法で安全や安定を求め発展してきた。

●12世紀の初めにモンゴルのチンギス・ハンは、モンゴル・中国・中央アジア・イ

ラン・東ヨーロッパなどを征服し、当時の世界人口（3億人程度？）の半数以上を統治するに到るモンゴル帝国を樹立。

●15世紀にモンゴル帝国が衰退すると、ポルトガルやスペイン両国を中心として、ヨーロッパに航海ブームが起こり、海外へ新たな交易ルート確保の流れができた（大航海時代）。主な貿易品は、香辛料やお茶、綿花、砂糖、そして中国や日本の陶磁器、火薬の原料である硝石等。

●17世紀中ころまでには世界全域にヨーロッパ人が到達して、大航海時代は終焉を迎える。その頃、世界中の富が集積するイギリスを始めヨーロッパ各国は近代化を達成して世界に覇を唱えはじめた。

●18世紀半ばになると、イギリスで産業革命が起こり、生産性が飛躍的に拡大。これは産業の工業化であり、フランス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本と広がっていった。

ここで人類は、「交易・略奪」に加え「生産性の拡大」という方法も手にした。

●19世紀になると、ヨーロッパでは国家主義・自由主義が広がった。工業化による生産力の増大により得た、圧倒的な軍事力・経済力でイギリスが世界に君臨し、国際経済体制を自由貿易により構築した。この過程で20世紀の世界大戦の遠因も形成された。日本も1853年に開国を迫られ世界経済に組み込まれた。ドイツ・フランス・アメリカも産業革命を経て、植民地争奪戦が行われた。

市場主義（自由主義）経済社会では、「お金」を多く持っている者が強く豊かになる。お金は万能の交換価値だからだ。そこで利潤追求を原動力として動く経済体制、すなわち市場主義経済体制において目指すゴールは、「お金を沢山稼ぐこと」になる。そのために、質のいいものを安く大量に生産することがテーマとなった。

日本でも19世紀に入ると本格的に経済を伸ばして物的に豊かにすることに重きを置いた。教育界では、江戸時代までは本学（人としての道理。四書五経等）の教育がベースにあり、それにより、名誉心や誇り、思いやり、胆力などが育まれていたが、明治時代に入ると末学（実学）を重視（福沢諭吉が1876年「学問のすすめ」で説いた）。鎖国政策で様々な制度や科学技術に遅れをとっていたからである。

●20世紀は、飛行機、ロケット、核兵器、化学兵器等科学の発展が大きく進んだ。また、世界人口は産業革命以降に急激な増加を見せる。20世紀初頭15億人、1950年25億人、20世紀末には60億人を突破。

2度の世界大戦と冷戦、植民地の独立（1945年以降に独立国となったのは、約100カ国。世界の約半数の国が第二次世界大戦後に独立国家となっている）。

戦後、世界は大きく経済成長した（勉強会では、この経済成長から詳しく学ぶ・・・戦後復興、朝鮮戦争、高度経済成長（この時代の成長戦略を手本として採っている企業が未だにあるが、もう時代遅れである）、人口増加、プラザ合意、バブル崩壊、天災、株式・不動産投資、ネット、医療、資本家、自然、環境問題、思想哲学、バイオ、宇宙開

発、少子高齢化、BRICS、モノ作りは国外へ、GAFA 等)。

●21 世紀、社会的特異点 (シンギュラーポイント) 到来。遺伝子工学、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、AI の爆発的進歩。世界人口については、2018 年は 74 億人。今後も増え続け 2050 年には 98 億、2100 年には 112 億人を予測。ただし日本は 2007 年の 1 億 2,771 万人をピークに減少に転ずる。2100 年は 4,000 万人程度になる。

人口の増加は資本主義・自由主義経済が発達するための大きな要素である。したがって、世界人口が増える限りは、資本主義経済以上のシステムが生まれられない限り伸びていくが、日本は人口減少・少子高齢化などにより、経済的成長はあまり望めない。1960 年代の高度経済成長は、GDP は毎年 10%伸びていたが、その要因の一つは人口が増えていたからだ。そして資本主義とはつまるところ、資本家と労働者に分かれる。今後は、誰もが資本家としての立場も持つべきと考える。

人間は、必要なものが手に入ると、次は便利なもの、楽しいもの (娯楽)、刺激あるものを求めるようになる。しかし、ここで自律心 (節度) と精神的拠り所 (道理) を失いやすい。便利で快適なものに囲まれ、志義を持たずに生活していたら精神が弱くなるのは必然だ。自分を律することができず、道理を忘れた人達は、自分の私利私欲以外の判断基準がなくなっていく。より強い刺激を求め、エロ・グロ・ナンセンスとなり、文明を頽廃させていく。様々なイデオロギーに翻弄されて主体性・創造性を手離すようになる。主体性・創造性より快楽・享楽が優先されやすい。「あの人も行ってしまう」というキャッチコピーに釣られて、誰かの後ばかり追いかけるようになってしまうかもしれない。

この流れが本流になってしまえば、日本は危ない。

世界の競争はますます激化する。資本主義社会での生き残り戦略 (陽) を持ちつつ、同時に人間らしく生きるための戦略 (陰) も抱き、自ら進歩し続け、この世界を少しでもよくして次世代に引き渡していく方向へ舵取りしなければならない。

そのために、歴史や社会を知った上で戦略を立てることは、私たちが今後をどう生き抜くかを定める上で非常に大切である。また、ネットの情報やバーチャルではなく、身体的刺激、つまり、実際の経験に重きを置くことが、精神を健全に保つ上でも重要である。

結局、自分次第である。人間の可能性は無限であるとしても、ひとりの人生の時間は有限だ。時間は命そのものである。

心が強ければ人生は開ける。自分の心の声から耳を背ける人間、現実から目を背ける人間は生き残れない。様々に学び、言うべきことは言い、人々と協力しながら、試行錯誤を重ねて成すべきことは為していくという気概・覚悟・胆力が必要だ。それが自分を

生きることであり、同時に人類を「進歩」へと向かわせることになる。そう信じている。

今月も、健康と健闘を！